

令和4年度第1回仙台市科学館協議会会議録

日 時 令和4年6月1日(水) 14:30~15:30
場 所 仙台市科学館1階市民の理科室
出席委員 磯部裕子委員, 河野裕彦委員, 佐藤美嶺委員, 高田淑子委員,
長島康雄委員, 松崎雅威委員, 松田佳歩委員(計7名)
欠席委員 庄子裕委員, 田中真美委員, 細野たかし委員
事務局 石川館長, 田中副館長, 久米井主幹兼庶務係長,
青木主任指導主事, 青沼指導主事
傍聴人 3名

議事要旨

- 1 開会
- 2 委員紹介・委嘱状交付
- 3 職員紹介
- 4 館長挨拶
- 5 会長及び副会長選出
○会長に河野裕彦委員, 副会長に松崎雅威委員を選出
- 6 会長挨拶
○河野会長が議長となり会議を進行
○議長より議事録署名人に高田委員を指名
- 7 報告事項
 - (1) 令和4年度仙台市科学館事業計画について
○青木主任指導主事から資料1により説明
(質問等)
特になし
 - (2) 仙台市科学館展示リニューアル実施設計について
○青沼指導主事から資料2により説明
(質問等)
○高田委員
リニューアルは何年を想定しているか。また、今回の次のリニューアルまで何年ぐらい間が空きそうか。
○石川館長
予算を確保できれば来年度、再来年度の2年を想定している。その次のリニューアルについてはまだ見通しがつかないが、参考として前回のリニューアルは平成10年頃に行っている。

○高田委員

おそらく20年ぐらいだろうか。その間に展示を更新する必要があると思われるが、展示内容は職員でもアップデート可能なのか、それとも業者に依頼しなければ難しいのか。その辺りの自由度も踏まえた設計があると良い。

○石川館長

簡単な部分なら職員だけで手を入れることも可能かと思うが、コンテンツの更新にはやはりプロの業者の手が必要不可欠だと思う。技術の発展により展示内容が何年で陳腐化するかは読めないが、できるだけ時間がたっても違和感を持たれないような作りにしたい。

最先端技術だけではなく、その基礎となるこれまでの科学技術も紹介する科学館というのも今回のリニューアルのコンセプトの一つである。最先端技術については企画展やコーナー展示のような形で対応していく。

常設展はこれまでの普遍的な科学技術を、映像など交えて分かりやすく展示していく。

○長島委員

仙台市天文台のリニューアルの際もそうであったが、基礎的な内容の展示は長く保つが、それに比べて最先端の展示はすぐ安っぽくなるという特徴がある。バランスを取ることが大事。

博物館でもあるので、仙台市科学館にしかないもの、ここに来ないと見られないものという視点は大事だと思う。資料を見ると、こんなにもゾウの展示が充実しているのは日本の中でも茨城の博物館と仙台市科学館だけである。人類が登場するかしないかという時代の展示が見られるのは、仙台市科学館の魅力やPRポイントになっていくと思う。

また、大地の記憶のコーナーや、手前の広瀬川の展示、日本中でもここに来ないと広瀬川のコトは分からないというような展示があるのは、仙台市科学館独自の強みでもある。

○田中副館長

博物館としての科学館の魅力は「本物がある」ことだと思う。

コロナ禍の影響もあり、ネットや動画などで簡単に写真などを見られるような工夫が各施設で行われている。しかし、本物を見て感動していただくという視点が博物館施設の使命であると思うので、その辺りを意識しながら運営していきたい。

○松田委員

設計について、順路など来館者の動きは想定しているか。自分自身、科学館や美術館などで順路が分からず展示を見逃すことがあった。たとえば5ページ目の3階くらしの科学・防災コーナーなどは、展示が多く円が点在するような設計となっており、どこから見たらいいか分からなくてもいいと思う。

またコロナ禍の心配もあり、人だかりができないか。

○石川館長

順路はあえて設けていない方針で考えている。現在も小中学生の修学旅行などで団体が入ると、順路で見せると入口付近が極端に混雑するので、3階と4階に人数を分けて対応している。無理にストーリーは付けない。見損ねた展示がないよう、館内を見ていただきたい。

また、ガイドを付けて案内することも検討している。

○田中副館長

コロナの関係で言うと、年々展示物が増えてきた関係で現在は展示物同士の間隔が詰まってしまっている。今回のリニューアルでは展示同士の間隔に余裕をもたせる設計を考えている。

○佐藤委員

フロア全体を見渡せる設計がとても良い。小さい子どもを連れてくると、子どもはそれぞれ興味のある所へパーツと向かうので、壁で仕切られるとどこに行ったか分からなくなってしまう。全体を見渡せる設計になっているのはとても良い。

くらしの科学、防災コーナーに地震や浸水は含まれているが、土砂災害や津波に関する展示はあえて省いたのか。立地を考えると土砂災害などは発生頻度が高いと考えられるのでどこかでフォローできると良い。

現在の科学の探求コーナーは、現在の展示が壊れて修理中だから動かないのか、正しく動いているがこちらが意図を読み取れず分からないのか、ちゃんと動いたらどうなるのか判別が付きにくい。すべてを説明書きにするとつまらないので自分で考える余白は必要だが、何もわからないまま終わってしまうのももったいないと思う。

○青沼指導主事

防災に関しては数えきれないほどのテーマがあるため、何点かに絞って展示する方針である。残りは企画展や防災の関係部署との連携で対応したい。

傷んで動かない展示物については、常駐している保守点検の職員が常時巡回・点検し、故障しているものは調整中の表示をしている。

分かりにくい展示について、あえて説明しすぎず来館者に考えていただく意図もある。サイエンスナビやQRコードを読んで見つけられるコンテンツを今後拡充していきたい。

またリニューアルでは、科学の探求の部分には小さなモニターや端末を設置し、紹介・説明等が出されるような仕掛けにしている。

○河野会長

空間の使い方については今までも議論されており、広く遠くまで見えるレイアウト、それからテーマに合ったレイアウト、たとえば自然史系では自然の中にいるよ

うな空間の使い方が意識されているように思う。

○磯部委員

小さな子どもたちが休憩したり、体験したり学んだことを先生たちと振り返ったりできるような、集まれるコーナーがあると良い。そういった一息つける場所はこれから設計に盛り込まれていくのか。

○石川館長

休憩スペースや座って学習できる場所について、以前は科学館にもテーブルや椅子を設置していたが、コロナ禍の影響により現在は撤去しており、どこまで戻すかは未定である。

テーブルや椅子は設置する予定だが、現段階の設計ではあえて落とし込んでいない。今後の状況を見ながら、可動式のテーブルや椅子なども選択肢に入れ考えていきたい。

(3) その他

特になし

8 事務連絡

次回の開催日程については、今回と同様にメールで日程調整させていただく。

9 閉会

令和4年6月29日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

河野 裕彦

仙台市科学館協議会 委員

高田 淑子